

アルプス「処理」汚染水を海に流すのは止めて！
私たち、子どもたち、未来の人々のために、
そして、すべての地球上の生物のために。

これをぜーんぶ
海に捨てるんだよ



 このタンクが全部アルプス 処理汚染水



日本政府は、2023年8月から福島第一原発事故で出たALPS処理水を福島沖に流し始めました。たいへん危険なため、一度タンクに貯蔵していたものです。薄めて出すから大丈夫と言うのですが、本当でしょうか。中国、韓国やオーストラリア、ニュージーランド、フィジー、パプアニューギニア、マーシャル諸島など、16ヶ国及び2地域からなる太平洋諸島フォーラムの国々からも心配の声が聞こえます。

放射能は微量でも安全ではありません。その影響はすぐには出ないので、因果関係がわかりにくく放射能被害が隠され、なかったことにされます。日本人にとって海産物は毎日食べられている食品であり、被ばくの影響がずっと続くことが大きな心配です。そして、おそろしいことに子どもなどの若い人たちに健康被害の確率が高くなります。



お問合せ/三陸の海を放射能から守る岩手の会
盛岡市 永田宛
<http://sanriku.my.coocan.jp/>

アルプス処理水のこと考えよう！

ちょっと難しいけど、大事な話だよ

トリチウムは、他の放射能と同じ様にとても安全だなんて言えません。
すぐに影響が現れる事はないけれど、10年後20年後にその影響が現れるかもしれません。
それからでは取り返しがつきません。



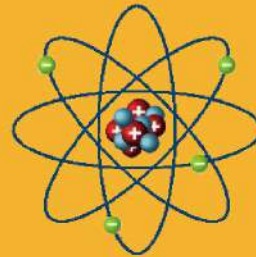
ALPS (アルプス) 処理水って何ですか？

アルプスという放射能除去装置を通した原発事故汚染水のことです。放射能を取り除いたとしてアルプス処理水と言うけど、トリチウムと炭素はすべて残り、セシウム・ストロンチウム・ヨウ素など多種の放射能も除去しきれず残ってしまうんだ。



放射能がアルファ線、ベータ線などの放射線を出し別の元素に変わる時、余分のエネルギーをガンマ線として放出するんだ。放射線は大きなエネルギーを持っていて細胞やDNAを傷つけるんだ。放射能には寿命が長いものがある、食物連鎖で植物から動物、小生物から大きな生物に濃縮されながら移動し、最後はヒトがそれを食べて被ばくさせるんだ。これを食物連鎖というんだよ。放射線は老人より若者、成人より子ども、子どもより乳幼児・胎児に危険性が高い。そう放射能にはこれ以下なら安全という値はなくて少しの量でも危険なんだ。

トリチウムやセシウム、ストロンチウムなどの放射能は生物になぜ危険なの？



放射線は原爆などで一度に大量に被ばくすればすぐにも死亡するか障害が出るけど、大量に被ばくしない場合は障害が現れるまで時間がかかるし障害が出ない人もいるので原因がつかみにくいんだ。放射能による汚染の影響は、わかったときには取り返しがつかないんだよ。



トリチウムは宇宙線や核実験の影響などで海水に少量含まれているけど、放出アルプス処理水にはその7500倍ほど含まれていて、水として植物や動物の中に簡単に取り込まれるんだ。化学的には水素と同じなので、生体内の水素に取って変わりやすい性質があって、生体内に取り込まれたトリチウムは炭素等と結びつき、食物連鎖で濃縮されるんだ。細胞内のトリチウムはベータ線を出してヘリウムに変わるけど、その時に出すエネルギーは細胞内の化学結合の1000倍ほどあって、ひとつの細胞の中を集中攻撃して体の内部から被ばくさせるんだ。これが内部被ばくだね。

ALPS処理水の中のトリチウムは安全なの？

水素は遺伝子の本体であるDNA形成に欠かせない元素だけど、トリチウムに変わっているとベータ線を出してヘリウムに変わる時、ヘリウムは安定した元素なのでどの元素とも結合せず結合部分が切れてDNAが傷ついてしまう。DNAは生物の体の設計図なのでその傷が生物に与える影響は計り知れないんだ。

